

キハダ 中西部太平洋

Yellowfin tuna *Thunnus albacares*



管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)

生物学的特性

- 最大体長・体重：尾叉長 208 cm・176 kg
- 寿命：最大で 15 歳
- 性成熟年齢：2.5 歳 (50%性成熟年齢)
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場：周年・分布域に等しい
- 食性：魚類・甲殻類・頭足類
- 捕食者：(大型個体の場合) カジキ類、サメ類、海産哺乳類

利用・用途

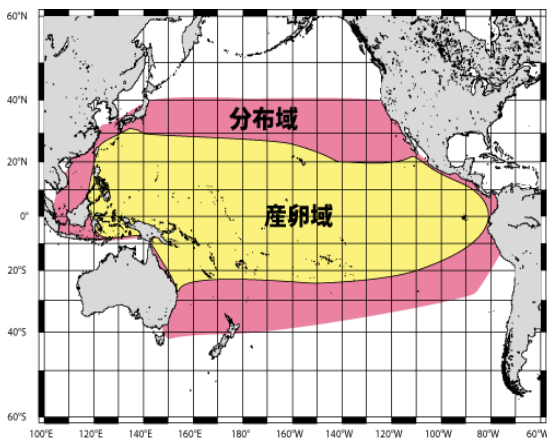
刺身、缶詰、練り製品の原料

漁業の特徴

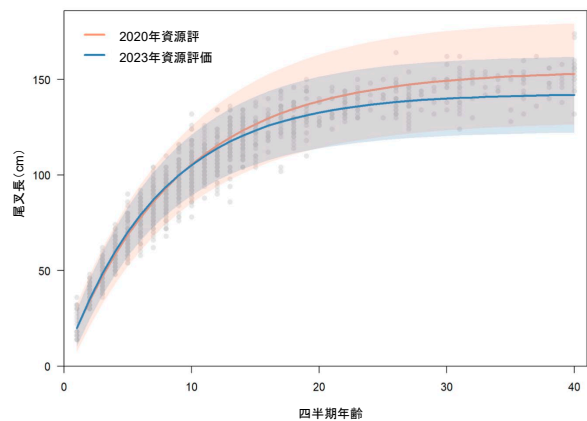
はえ縄、まき網及び竿釣りが主な漁業である。はえ縄は 1950 年代にキハダを主要対象種として発展したが、1970 年代半ばにメバチを主要な対象とするようになった。まき網は、カツオを主対象としつつ、キハダも漁獲する漁業として 1970 年代半ばに始まった。1980 年代までは、はえ縄が漁獲の半分以上を占めていたが、その後、まき網による漁獲量が増加した。フィリピン・インドネシアでは小型まき網、ひき網、刺網、手釣り等の漁業が小規模かつ多様で、漁獲量も大きく、増加傾向にある。

漁獲の動向

当該水域における漁業国・地域の 2024 年の総漁獲量は約 74.1 万トン (予備集計) で、過去最高値を記録した 2021 年の約 76.3 万トンと同程度であった。内訳は、まき網が約 51%、はえ縄が約 12%、竿釣りが約 2%、その他が約 35%である。その他には、フィリピン及びインドネシアにおける多様な漁業 (ひき縄、小型のまき網、刺網、手釣り等) が含まれている。



太平洋におけるキハダの分布



中西部太平洋におけるキハダの成長曲線

資源状態

資源評価は2023年に太平洋共同体事務局（SPC）の科学専門グループにより行われた。評価期間は1952年から2021年であり、統合モデルであるMultifan-CLが解析に使用された。最大持続生産量（MSY）は70万トン（54モデルの中央値）と推定され、2022年の漁獲量（約69.7万トン）はほぼMSYに達している。資源状態を示す指標（SB/SB_{F=0}）は2000年代半ばまで減少傾向を示し、近年までは概ね安定している。また、2018年から2021年の産卵資源量の平均レベル（SB₂₀₁₈₋₂₀₂₁/SB_{F=0}）は0.47（80%確率範囲は0.42～0.52）であり、限界管理基準値（Limit Reference Point；SB/SB_{F=0}=0.20）を上回っている。また、過剰漁獲能力の基準の一つであるMSYを実現する漁獲死亡係数（F_{MSY}）で判断した場合、2017年から2020年の平均漁獲係数のレベルは1.0を下回った（F₂₀₁₇₋₂₀₂₀/F_{MSY}=0.50）（80%確率範囲は0.41～0.62）。資源は乱獲状態の可能性が低く、漁獲の強さが過剰でない可能性が高い。

管理方策

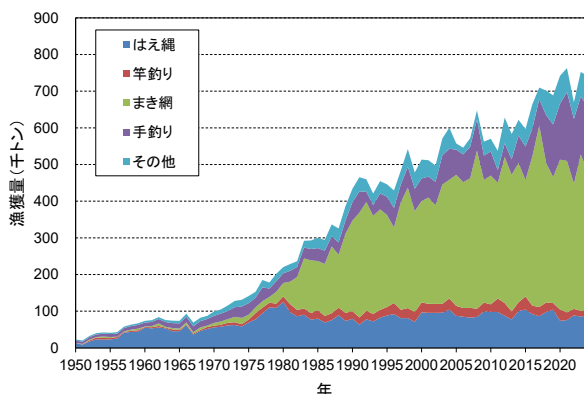
まき網（熱帯水域）

- ・FAD 操業禁止1.5か月（7～8月中旬）+ 公海FAD 操業禁止追加1か月（4～5月もしくは11～12月）
- ・公海FAD 操業禁止措置は、キリバス排他的経済水域に隣接する公海でキリバス旗を掲揚する船舶、及び特定の公海で操業するフィリピンの船舶に適用されない
- ・FAD 操業禁止は、本船以外の船（tender vessel等）にも適用される
- ・FAD 数規制（1隻あたり常時350基以下）：全条約水域に適用。
- ・排他的経済水域内での操業日数制限（我が国の操業日数は1,500日）
- ・公海上での操業日数の制限（我が国の操業日数は121日）
- ・島嶼国とインドネシアを除く加盟国の大型冷凍船の隻数制限
- ・海洋生物の絡まりを防ぐため、FADへの網地等の使用禁止。

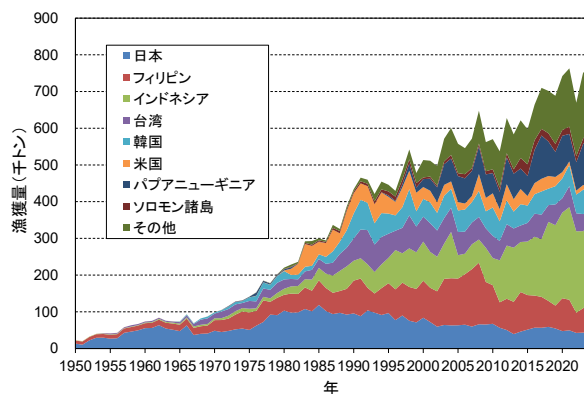
はえ縄

- ・メバチの漁獲量制限*（我が国の漁獲枠は18,265トン）

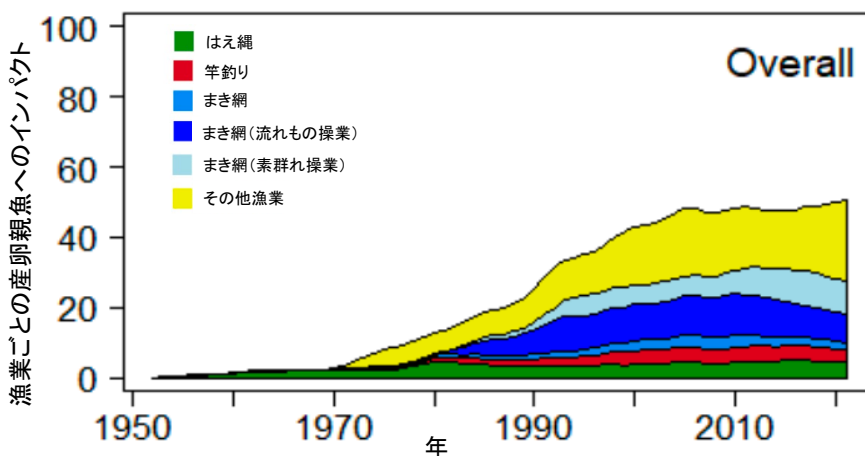
*キハダの漁獲制限は定められていないが、はえ縄漁業ではメバチ狙いの操業であってもキハダが漁獲されることは珍しくなく、キハダの漁獲にも影響することが考えられる。



中西部太平洋におけるキハダの漁法別漁獲量の推移 (1950～2024年)

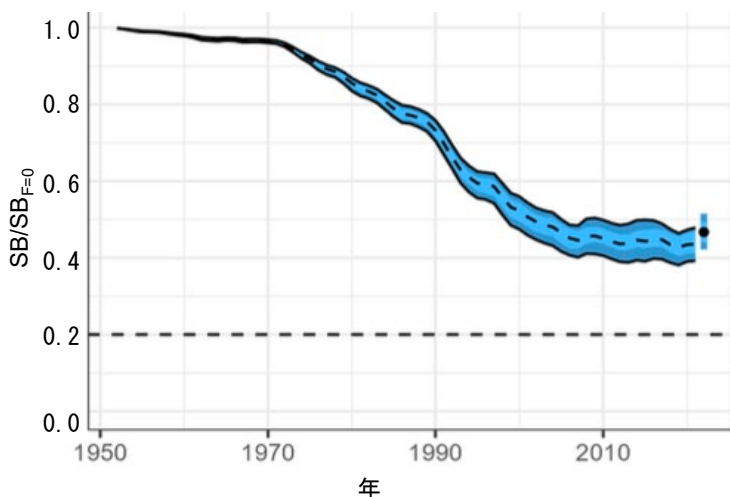


中西部太平洋におけるキハダの国・地域別漁獲量の推移 (1950～2024年)

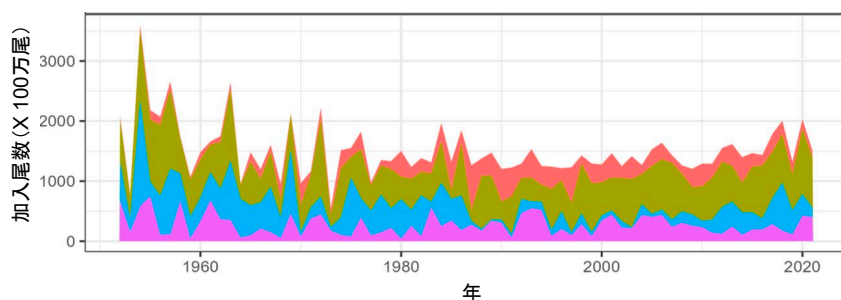


中西部太平洋における漁業ごとのキハダ産卵資源へのインパクト (1952～2021年)
 縦軸は漁業が資源を減少させた割合 (%) を示したもの。
 はえ縄 (緑)、竿釣り (赤)、まき網流れもの操業 (青)、まき網素群れ操業 (水色)、その他 (黄) を表す。

キハダ（中西部太平洋）の資源の現況（要約表）	
世界の漁獲量 （最近5年間）	67.0万～76.3万トン 最近（2024）年：74.1万トン 平均：73.4万トン（2020～2024年）
我が国の漁獲量 （最近5年間）	4.2万～5.0万トン 最近（2024）年：4.2万トン 平均：4.5万トン（2020～2024年）
資源評価の方法	統合モデル（Multifan-CL）による解析
資源の状態 （資源評価結果）	SB ₂₀₂₁ :280万トン、SB _{F=0} :560万トン（SB ₂₀₁₈₋₂₀₂₁ /SB _{F=0} =0.47） F ₂₀₁₇₋₂₀₂₀ /F _{MSY} =0.50 2021年の資源状態は、過剰漁獲ではなく、乱獲状態でもない
管理目標	暫定値：2012～2015年の平均減耗率（SB ₂₀₁₂₋₂₀₁₅ /SB _{F=0} ）
管理措置	まき網（熱帯水域） ・FAD操業禁止1.5か月（7～8月中旬）+公海FAD操業禁止追加1か月（4～5月もしくは11～12月） ・公海FAD操業禁止措置は、キリバス排他的経済水域に隣接する公海でキリバス旗を掲揚する船舶、及び特定の公海で操業するフィリピンの船舶に適用されない ・FAD操業禁止は、本船以外の船（tender vessel等）にも適用される ・FAD数規制（1隻あたり常時350基以下）：全条約水域に適用。 ・排他的経済水域内での操業日数制限（我が国の操業日数は1,500日） ・公海上での操業日数の制限（我が国の操業日数は121日） ・島嶼国とインドネシアを除く加盟国の大型冷凍船の隻数制限 ・海洋生物の絡まりを防ぐため、FADへの網地等の使用禁止。 はえ縄 ・メバチの漁獲量制限*（我が国の漁獲枠は18,265トン） *キハダの漁獲制限は定められていないが、はえ縄漁業ではメバチ狙いの操業であってもキハダが漁獲される
管理機関・関係機関	WCPFC
最新の資源評価年	2023年
次回の資源評価年	2026年



中西部太平洋におけるキハダの Spawning Biomass ratio の推移（1952～2021年）
漁業がないと仮定した状態のSBを1.0としたときの、1952～2021年のSBの割合。
黒の破線は54モデルの中央値。
濃い青色の影、薄い青色の影は、それぞれ25・75パーセンタイル及び10・90パーセンタイルの範囲を示す。
最も外側の黒丸は近年（2018～2021年）の中央値、垂直のバーは10・90パーセンタイルを示す。
なお Spawning Biomass ratio の推移は、過去1年分の漁業がないと仮定して推定した値、最も右側の黒丸や垂直のバーは各年について過去10年分の漁業による漁獲がないと仮定して推定した値であることを留意。
過去10年分のケースが資源管理方策を考える場合の指標に用いられる。



海区
1
2
3
4
5
中西部太平洋におけるキハダの加入量（海域ごとの加入量）（1952～2021年）